

日本語読解・漢字コースにおける WebCT Vista の利用

名古屋大学情報連携基盤センター[†] 名古屋大学留学生センター[‡]

周 孟青[†] 梶田 将司[†] 間瀬 健二[†] 石崎 俊子[‡] 村上 京子[‡]

E-mail: [†]{chou,kajita,mase}@itc.nagoya-u.ac.jp

[‡]g44420a@cc.nagoya-u.ac.jp, ishizaki@esic.nagoya-u.ac.jp

1. はじめに

名古屋大学留学生センターでは、名古屋大学の留学生、外国人研究員などを対象に全学レベルの日本語教育プログラムを実施している。多くの学生・研究員が、時間割の制約などで用意されている日本語授業に参加できないことを配慮し、また読解と作文能力の養成と保持を目的に、オリジナルの読解教材を学生にメールで配布して、学生からの解答に対するフィードバックを返すというコンピュータを利用した日本語読解授業を2004年の4月から開講した。しかし1人の教員が多人数の学生にフィードバックすることは負担が多く、教材配布の簡便化などの改善が検討されていた。

一方、名古屋大学情報連携基盤センターでは、大学間連携でのe-Learningシステムの活用に関する方策を研究するため、WebCT Vistaを導入した。WebCT Vistaは、テストツールの自動採点機能があり、即時に学生にフィードバックを返せるという利点がある。そこで、留学生センターでは、2004年の9月の日本語読解授業からWebCT Vistaを用いて教材を配布することを試みた。

また、留学生の大幅な増加に対応するために既存の日本語教育プログラムが見直され、2005年4月より改善されたプログラムを実施することになった。それに伴って留学生の多様なニーズを受け入れる体制を整えるための改善策の1つとして、アラカルト授業「漢字コース」を開講することになった。漢字学習というのは授業の中での学習に加え、学習者個々の学習進度や習熟度に沿った学習方法が最も必要とされるので、その自立学習が実現しやすい最適な方法としてWebCT Vistaを選択した。

これらのコンテンツを共有化して学内で活用できるよう、2004年の9月から名古屋大学留学生センタ

ーと情報連携基盤センターが連携してWebCT Vistaの利用を試みている。

本稿では日本語読解・漢字コースにおけるWebCT Vistaの利用について述べる。

2. WebCT Vista の説明

WebCT (Web Course Tool) は一言で言えばWeb上でコース(ここでは授業・科目の意)を設計・管理・運営するツールで、現在多くの教育機関で導入されつつある。WebCTを用いれば、Webベースのコースを簡単に作成することができるだけでなく、既に作成済みのパワーポイント、html、pdf形式の教材など、WebCTを通じて学生に閲覧させることもできる。また、電子掲示板、成績の保守と通知機能、アクセス制限機能、自動採点が可能なテスト出題機能、宿題提出・回収ツールなど、非常に豊富なツールが用意されている。今回利用するWebCT Vistaは、これまで大学の学部や学科レベルで運用されてきたオンラインコースを、大学やコンソーシアムのようなより大きい組織レベルで管理することを可能にしたWebCT CE (キャンパスエディション) よりさらに強力なツールである。また多種類の質問形式(選択、真偽、短文、組み合わせ、穴埋め、並べ替え、整合、記述)が語学教育に適している質問が作成できると考え、WebCT Vistaを利用することになった。

3. コースの説明

3.1. 漢字コース

漢字コースは、留学生の日本語学習の難関としてよくとりあげられるのは「漢字」のアラカルト授業である。このような、なかなか一人では勉強が進まず、ついくじけてしまいそうになる漢字学習を少しでも支援するのが目的である。

3レベルのクラスに分かれていて、他の日本語クラスの受講や、これまでどのようなテキストで勉強

しているかに関わらず、自分の漢字のレベルに合ったクラスが受講可能である。3レベルのクラスの詳細は次のとおりである。

・漢字 100 クラス

漢字の基礎の基礎から始めたい学生を対象に、日本語能力試験 4 級程度の漢字、約 100 字の習得を目標とする。

主教材：『漢字マスター Vol.1 4 級漢字 100』

・漢字 300 クラス

漢字 100 字程度を学習した学生を対象に、日本語能力試験 3 級程度の漢字、約 300 字の習得を目標とする。

主教材：『漢字マスター Vol.2 3 級漢字 300』

・漢字 1000 クラス

漢字 300 字程度を学習した学生を対象に、日本語能力試験 2 級程度の漢字、約 1000 字を目標に学習する。

主教材：『漢字マスター Vol.3 2 級漢字 1000』

3.2. 読解コース

読解コースは、日程の都合で通常の授業に参加できない、中級を修了した学習者を対象に Web 上で教材の提供・回答の採点・添削等を行う。読解・作文能力を高めることを目標にして、毎週 1 回 500 字程度の読解文と問題が送付される。受講者は文章を読み、語句や漢字の確認、意味理解を問う問題に答える。また、問題文に関連した作文(200 字)を書く。作文は、文の首尾一貫性、文法、語句・表現などの観点から添削され、返信される。決められた時間内で学習に関する相談も受け付ける。

4. WebCT Vista の利用

4.1. 漢字コース

2005 年 4 月から始まる 3 つの漢字コースの授業の補助教材として WebCT Vista を導入し、学生が毎回授業で習った漢字を復習できる場を提供することにした。既習の漢字の読みの練習、反対語の練習、送り仮名を付ける練習、更には初級の学習者に必要とされる「形の構造」を理解させるための問題、例えば部首などの字形構造パターンの識別問題など様々な練習を選択問題、記入問題、整合形式や穴埋め形式など違った問題形式で出題する(図 1)。

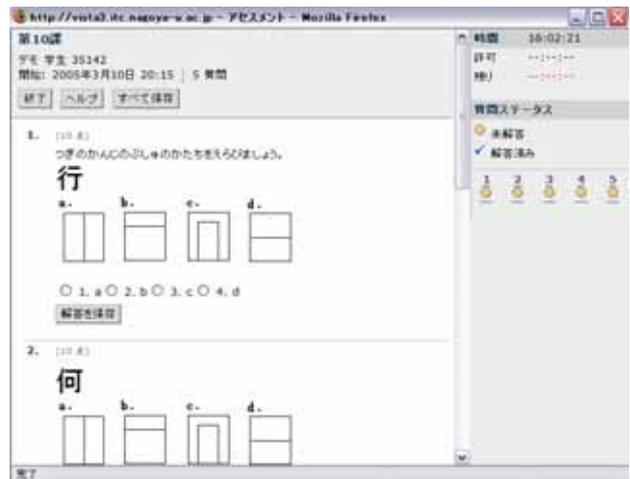


図 1 : WebCT Vista を利用した漢字コースの問題の 1 例

また、このコースの宿題の一つとして学生が既習済みの漢字を使って短文を作成し、提出するという課題があるが、この WebCT Vista の「課題ツール」を利用すれば、学生が提出した文章を全て一括して見ることができるという学生にも教師にも画期的な試みができる(図 2)。



図 2 : 学生が提出した課題の一例

学生は基本的にログインして問題に回答すると、問題の正誤及び正答が即座に得られ、その上自分の成績を知ることできる。漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまうので、個々の学習者が好きな時に何度も繰り返して練習することができ、また自分の間違った箇所と、正答がすぐに表示されるこの WebCT Vista は漢字学習の最高の環境を与えてくれると確信している。また、問題は日本語能力試験に準拠した漢字を選んでいるので、この漢字コースの復習だけでなく、試験対策のためにも役立つ。

4.2. 読解コース

2004年9月からWebCT Vistaで読解教材の配布を行った。以前から行われていたWord文書配布の実施形式に近づけるよう、テストツールを利用して問題を作り、即時にフィードバックできる機能を利用した。WebCT Vistaの質問形式が多種類で、かつ、自動採点ができるという利点を用いて、読解の語句や漢字の確認、意味理解の読解質問を整合形式、穴埋め形式、選択形式、真偽形式で作ることを試みた。文章の要約、感想・意見を述べる作文については、教員の添削が必要となるため、記述形式の質問で作った(図3)。



図3：学生からみた読解コース

また、問題は何回も受けられるように設定した。さらに学生が日常的にWebCT Vistaにアクセスする習慣をもたないため、作成した読解問題が公開されるとともにメールツールを利用して学生に問題の更新等を通知する方法を試みた。

5. おわりに

2004年9月から実験的に実施した読解コースの終了後に利用アンケートの収集を行った。その結果、WebCT Vistaを導入することで、教師が学生へのフィードバックの負担が軽減することがわかった。学生ではWebCTのようなCMSを使うことに抵抗がなく、即時にフィードバックが得られることをよいという声があった。また1回分の読解問題を何回もチャレンジする学生が何人もいたことから、WebCT Vistaで教材を配布したことは、学生の自律学習に適しているものだとわかった。

漢字コースは通常の漢字授業の補助教材として導

入される予定だったが、通常の漢字授業に時間の制約のため、出席できない学生にも自分で勉強できるようにオンラインのみの漢字コースを提供することにした。

今後の課題として、漢字コースは、現在は補助教材として導入しているが、将来的には書き順を動画で紹介したり、タブレットPCを利用した手書き入力導入を検討し、一つのオンラインコースとして充実させていく計画である。また、読解コースは、テストの自動採点機能と多種類の質問形式を生かして、読解学習に必要な読字力、語彙力、文法理解力、意味把握力の問題を作成していく予定である。また専門に沿った教材を作成して蓄積していく予定である。

謝 辞

本研究は、文部科学省平成16年度「知的資産の電子的な保存・活用を支援するソフトウェア技術基盤の構築」研究開発課題「ユビキタス環境下での高等教育機関向けコース管理システム」、および、文部科学省科学研究費基盤研究(A)「地域学術コンソーシアムにおけるe-Learning地域ハブに関する研究」(課題番号：15200054)の助成を受けて実施されている。

参考文献

- [1] 石崎俊子, “漢字コースにおけるオンライン教材 WebCT Vista の利用” 日本語教育方法研究会 第24回予稿集, Mar.2004.
- [2] 周孟青, 他 “日本語読解授業における WebCT Vista の利用の試み” 第3回日本 WebCT ユーザカンファレンス予稿集, pp25-27, Jun.2005

